

自分の人生をつくる勉強、学習を共に始めませんか

わくワク塾は、「自分の身は自分で守る」勉強を掲げます。地球上のあらゆる生き物が「自分の身は自分で守る」ことを当然として生きています。人類もまた約 400 万年前から猿人（アウストラロピテクス類）、原人（ピテカントロプス類）、旧人（ネアンデルタール人類）、新人（現生人類）と進化しながら、「自分の身は自分で守る」て生き抜いてきました。ヒトという生き物は他の生き物と較べて、身体能力的に何の取り柄もありません。足は遅いし、鋭い牙や爪なども持っておらず、さまざまな動物に捕食されてきました。そのままの状態であれば、絶滅は免れなかったでしょう。しかし、面白いもので、身体能力的になんの取り柄もなかったことが、ヒトの脳の能力を生き延びるために進化させ、発達させることになったのです。人間は「自分の身は自分で守る」ために、武器や文字を発明し、人間の社会をつくって、他の動物に捕食されないように努めました。

人間の社会の中でも私たちは、「自分の身は自分で守る」ことをやめれば生きていけません。「自分の身は自分で守る」ことをしない者には、誰も手を差し伸べてくれないうでしょう。他の動物に捕食されないために、ヒトが脳を活性化させてきたことを考えると、やはり人間は多くのことを勉強して脳を活性化させつづける必要があります。但し、勉強すれば、脳が盛んに活性化するわけではありません。脳が盛んに活性化するような勉強をしなければ、いくら必死に勉強をしても、脳は応えてくれません。**脳が歓喜に打ち震えないような勉強は、思考停止状態の“死んだ勉強”**といえます。思考停止状態に陥れば、当然「自分の身は自分で守る」ことができなくなり、自分の首を絞めることになります。「自分の身は自分で守る」ことが窮地に立たされたときこそが、より一層粘り強く思考が縦横に展開されなくてはならないのです。

小・中・高と優等生だった若者が凄惨な事件を次々と引き起こしています。彼らがそのとき、思考停止状態に陥っていたことは、事件後に“誰でもよかった”とか、“本当に申し訳ない”などと述べていることからわかります。あれかこれかの二者択一の前で蹲って、殺傷行為に盲目的に突進しているからです。ウィーンに“目の前に二つの選択肢があるなら、たいてい三つめもあるものだ”という諺があり、二者択一の前でしっかり立ち止まって、三つめを見つけられるかどうか。本当に勉強してきたのなら、必ず“三つめ”が迫り上がってきます。思考は“**超越に向けて踏み切らせる**”からです。

“果てしない思考こそ最も素晴らしい”という感動に出会えなければ、受験勉強の奴隷としてつながれたままです。**思慮深い選択を下す能力に磨きをかけるために、勉強を戦略的行わなければなりません。**学校での“イジメ”についても、学校やクラスの担任に責任を求めるより、「自分の身は自分で守る」ことを子どもも必死に考えなくてはなりません。自殺という選択は最悪であり、活路を見出すためにこそ勉強しているはずであり、**相談相手や支援者を探すことは最大の勉強**なのです。

今の学校教育は“**なんのために勉強するのか**”を考えさせないし、この問いに真正面から答えません。こう問うことは、勉強の障害になると思われています。本当はこう問わないことこそが勉強の障害なのです。勉強していれば、“**なんのために勉強するのか**”という問いが起こってくるのは当然であり、起こってこないような勉強こそ戦慄すべきなのです。“**なんのために勉強するのか**”を問

いつづけるなかで勉強し、その都度答えを見出し、自分を納得させていく必要があります。自分を納得させられないような勉強は続きません。勉強は**“より多く”**、詰め込み、**“より速く”** 答えるものではなく、**何度も立ち止まって“深く”**、かつ**“長く”** 持続させ、その勉強スタイルのまま人生をかたちづくっていくべきなのです。

わくワク塾では、**“なんのために勉強するのか”** を問いつづけながら、具体的かつ現実的に勉強していきます。その問いに**答えていくことが勉強することの原動力**になるような、考えるための勉強、学習を行います。目に見えない世界を発見していくために、**明示的に**対話を繰り返し、討論を重ねていきます。この点が、現在の学校教育と決定的に異なります。勉強、学習の観点からは学校教育は不十分で多くの問題をかかえています、させられる勉強ではなく、自分が引き受けていく勉強の**はずみに**していけばよいのです。優等生であることがイヤになって、**“なんのために勉強するのか”** という問いに答えられ、自分を納得させるための勉強をしてみようと、一念発起して現在に至っている私は、そのときに**「書くこと」**を覚え、40数年間、**「書くこと」**を続けてきました。**“なぜ書くのか”** という問いに**不断に見舞われるなかで**書き続けていますが、**「書くこと」**よりも **“なぜ書くのか”** を問い続けることのほうが重要ではないかという気がしています。同様に、**勉強することよりも “なんのために勉強するのか”** を問うことのほうが大切ではないでしょうか。

書かなければ、**“なぜ書くのか”** という問いが生じないように、勉強しなければ、**“なんのために勉強するのか”** という問いも生じてきません。**“なぜ書くのか”** という問いを引き寄せるために文章を書いているように、**“なんのために勉強するのか”** という問いを引き寄せるために勉強するのではないのでしょうか。生きているからこそ、**“なんのために生きるのか”** という問いに再三襲われるのであり、死んでしまえば、その問いも起こりません。答えに正解はなくとも、その都度、自分の納得のいく答えを見出しながら勉強し、生きていくことによって、多くの人とつながり、**“人生を私物化しない”** ように努めなくてはなりません。

わくワク塾は、思い切り考えることが続いていくような**「原っぱ」**として出発します。

★ $1 + 1 = 1$ ではいけないの？ ★リンゴ1個とミカン1個を足すと2になるの？ ★ $1 + 1 = 3$ とか5にはならないの？ ★ゼロの発見はどうして歴史上に重要な意義をもつ？ ★自然界に直線がないように、1とか3の数字もないのではないの？

★実数 (real number) とは分数で表される有理数 (rational number) と無限小数で表される無理数 (irrational number) のことだが、複素数 (complex number) は実数と虚数 (imaginary number) で構成されるとして、学問上ではその実在性、有効性が19世紀の初めには認められるようになった虚数は、人間界ではどのような形をとって存在しているの？ ★人間の関係は数字でどう表せばいいの？ ★妊娠中のお母さんは1人ですか、2人ですか？ ★人の影は数字でどう表せばいいの？ ★人間は、生き物は整数的な個体ですか？ 【以上、数字についての疑問ばかり並べましたが、他にも「地球が太陽の周りを公転しているのに、どうしてお日様が昇ったり沈んだりするの？」などたくさんあり、これらの疑問について、一つ一つ仰天するように考えていきます。】